

「高齢者における塩分摂取量が慢性腎臓病の進行に与える 影響」に対するご協力のお願い

研究責任者 畔上 達彦
研究機関名 慶應義塾大学医学部
(所属) 腎臓内分泌代謝内科科学教室

このたび当院では上記の医学系研究を、慶應義塾大学医学部倫理委員会の承認ならびに研究機関の長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施します。

今回の研究では、同意取得が困難な対象となる患者さんへ向けて、情報を公開しております。なおこの研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を「8 お問い合わせ」に示しました連絡先までお申し出下さいますようお願いいたします。

1 対象となる方

2017 年 1 月 1 日から 2024 年 12 月 31 日までの期間に、半年で 2 回以上の尿中ナトリウム値及び尿中クレアチニン値を測定している 75 歳以上かつ慢性腎臓病の方。

2 研究課題名

承認番号 20251127

研究課題名 高齢者における塩分摂取量が慢性腎臓病の進行に与える影響

3 研究組織

研究機関

慶應義塾大学病院

研究責任者

(職位) 専任講師 (氏名) 畔上達彦

4 本研究の目的、方法

慢性腎臓病患者は増加傾向であり、腎機能障害の進行を抑制することで、透析などの腎代替療法導入や心血管疾患を防ぐことが重要とされています。また、高齢化に伴い慢性腎臓病を罹患している高齢者も増加してきています。

慢性腎臓病の進行を抑制するための食事指導として塩分摂取制限が広く認識されており、血圧低下や尿蛋白減少をもたらすことが分かっています。しかし、高齢者において塩分制限がもたらす影響についての情報は十分ではなく、食事摂取量低下によるフレイル(心身機能の低下)も懸念されています。そのため、我々は高齢者の慢性腎臓病において塩分制限がもたらす影響について検討し、

より適正な食事療法・塩分制限が行えるようにすることを目的としております。

5 協力をお願いする内容

2017 年 1 月 1 日から 2024 年 12 月 31 日までに 75 歳以上かつ慢性腎臓病で当院腎臓内分泌代謝内科に通院されていた方の尿検査から推定 1 日塩分摂取量を計算し、その後の腎機能(eGFR)の低下、透析導入への影響について情報収集・解析をさせていただきます。その他、血液検査・尿検査・併存疾患・使用薬剤・身長・体重・血圧・性別などのデータ、透析導入・死亡・心不全での入院・急性腎障害での入院などの経過についての情報を解析に使用させていただきます。

なお、新たなサンプル取得や追加の検査などは一切ございません。

6 本研究の実施期間

研究実施許可日～2028 年 3 月 31 日

7 外部への試料・情報の提供

該当致しません。

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）より、試料・情報の利用や他の研究機関への提供の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

実施施設 慶應義塾大学病院 〒160-8582 東京都新宿区信濃町 35

研究責任者 畔上達彦 腎臓内分泌代謝内科

連絡先：03-5363-3796

FAX：03-3359-2745

E-mail: t.azegami-1114@keio.jp

なお、お電話でのご連絡は可能な限り診療時間中[月曜日～金曜日および第 2・4・5 週の土曜日(ただし祝日は除く)、午前 8 時 40 分から午後 4 時 30 分]にお願いいたします。

以上